

京都

KYOTO

不思議ふしぎ!?

京都に隠れた意外な秘密を紹介します

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。京都を知ることには日本を理解すること。

京都好きを大好きに

京都検定

京都・観光文化検定試験
京都商工会議所

送り火 大の字の謎

祇園祭が終わると、もう京の町はお盆、送り火へと移ります。ニュースでは見ていたものの、初めて京都へ来た時、山に字が書いてあることに正直驚きました。

送り火の種類は他にもあったようですが、嚆矢とされる大文字山の「大」の字には、まだ多くの謎があります。一体いつ始まったの？ 誰が書いたの？ どこを向いているの？ などなど。

大の字の筆者は資料では

空海、足利義政、青蓮院門跡、近衛信尹、相国寺僧横川景三ら。起源はこれも一応文字資料では慶長年間が古い記録のようです。向きについても丸

太町通以南からは「K」の字にしか見えないほど北北西を向いています。大の字が正面を向くのは出町柳付近ということから義政の「花の御所」に向いているのでは？ いや火の神・愛宕山だなどと古来諸説紛々です。事実はどうあれ、町のどこからでも見える

あんなに大きなものが、いまだに多くの謎を秘めていること自体、京都という町の大きさと深さを感じさせます。

ところで、その出町柳にある弁天様がお祀りされていることをご存じですか？ もとは伏見宮家に祀られていたもので、宮家の東京移転に際しこの地に残された「妙音弁才天」です。もしお参りの際には是非弁天堂の扁額の文字を御覧下さい。伏見宮貞愛親王の筆で「妙音天」

と書かれています。この「音」の「立」の部分崩れて「大」に見えるのです。私はこの額を見るたび、大文字を正面する地に、大の字に向いて掲げられる扁額にあえて「大」の形を込められた京都人の教養と洒脱を感じずにはいられないのです。

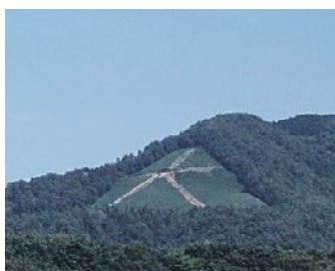
祭過ぎ大文字過ぎ夏もいくいとあわただし京の暦は

(吉井勇)

(京都学園大学非常勤講師 堤勇二)



夜空に浮かぶ送り火の「大」



南からは確かに「K」にしか見えない



妙音弁才天 弁天堂



伏見宮貞愛親王の「音」の字